

～「(仮)みんなのひろば」検討ワークショップ第3回を開催しました～

現在大槌町では、検討が進められている広場「(仮)みんなのひろば」について、整備イメージを考えるワークショップを行っています。

ワークショップ第3回を開催しましたのでお知らせします。

第3回ワークショップ結果概要

第3回ワークショップの内容

◎開催日時：令和5年5月31日（月） 18：00～20：30

◎会場：大槌町文化交流センターおしゃっち

◎テーマ：広場の姿をイメージしよう！

9名の方にご参加いただきました。

【第1部】：これまでのワークショップで考えたアイデアや意見をもとに、

①大槌病院跡の広場でどんなことをしたいか、②大槌や子どもたちに残したいモノ・コト・キモチとは何か、それを広場でどう表現するかを考えました。

【第2部】：第1部で出た内容をもとに、敷地内において譲れない施設や、なくてはならない施設について考えました。



ワークショップの様子

第1部の結果 ※意見の抜粋

①広場でどんなことがしたいか

- ・山を作る、穴を掘る、登る、くぐるなど、普通の公園ではできない、汚れながらできる遊び
- ・ガッチャンポンプなどの水遊び
- ・屋根の下や木陰で休憩したりお弁当を食べたりする
- ・友達と遊んだり、恋人とデートしたりする
- ・ウォーキングやペットの散歩をする

②「大槌や子どもたちに残したいモノ・コト・キモチとは？」

- ・ケヤキの木やツツジのように今も昔も変わらないもの
- ・記憶・思い出に残るもの
- ・大槌の人柄、地元のお祭り、郷土芸能などの大槌らしいもの
- ・人が集う場、新しい交流が生まれる場
- ・思いきり遊ぶ、学ぶことができるのびのび過ごせる場

第2部の結果 ※意見の抜粋

「この施設は譲れない！」と思う施設や「これはなくてはならない！」と思うものは？

- 1.自然の障害物や遊具 2.大槌らしさや癒しを感じられるもの 3.休憩施設やお手洗い

第1部では、普通の公園ではできない、自然の中で汚れながら思い切り遊ばせたいという意見が多く、遊びだけでなく、遠足やピクニックに来たいという意見もありました。また、友達と集える場所、デートができる場所、思い出に残る場所など、場所として大槌に残していきたいことについての意見もありました。

第2部では、「山を作る、穴を掘る、登る、くぐる」などの普通の遊具ではできない、自分たちで考え、体を動かしながら遊べる施設や機能がほしいという意見が多く、また、ケヤキやツツジ、湧水を使った噴水やガッチャンポンプなど、大槌らしさを感じられるアイテムがあったら良いのではないかという意見も多く見られました。具体的な施設に関しては、トイレ、手足を洗えるところ、休憩のための四阿やベンチなどが挙げられました。

他にも、学校と連携した広場のルール作りや、子どもの年齢別に遊べる遊具を分ける、既存の駐車場を使わないときは、自転車やスケボーなどで遊べるようにエリアを区切るなど、ソフト面で取り組んでいきたいことについても、たくさんのアイデアが出されました。